



市人権推進課（教育庁舎1階）

TEL 32・2122 / FAX 33・3525

いじめによる子どもの自殺が続き、心が痛みます。今月号から「いじめと人権」について、徳島新聞の「日曜コラム」欄に標題の記事が載せられていましたので、ご紹介していきます。みなさん、ともに考えてみませんか。

物語の主人公は小学校の6年生。同じクラスの4人組にいじめられている同級生をかわいそうだと思いがらも、見てみぬふりをしている。口を出すと自分がいじめられるから…。

美波町の絵本作家、梅田俊作さん・桂子さん夫妻の絵本「しらんぷり」（ポプラ社）が出版されたのは15年前。

当時も、いじめが大きな問題になっていた。「しらんぷり」は全国で反響を呼び、1997年度の日本絵本大賞を受けた。

次第にひどくなるいじめ、しらんぷりをする主人公の心の葛藤、反応しない先生や父母の鈍さがとてもリアルだ。俊作さんの身近にあった実例がベースになっているからだろう。

いじめ、いじめられる、しらんぷりをする。程度の差はあれ、誰もが似たような体験をしているはず。久しぶりにこの絵本を開いた筆者も、遠い昔のほろ苦い記憶がよみがえった。

大津市で中学2年の男子生徒が自殺するなど、いじめの悲しいニュースが後を絶たない。

もちろん、先生や教育委員会にはしっかりしてもらわなければ困るけれど、いじめは、私たちすべての大人に投げ掛けられた問題な

のだと思う。

「いじめの問題の根っこは大人にある」と俊作さんは言う。「大人がしらんぷりをするから、子どももしらんぷりをするようになる」と。

絵本には、いじめられている同級生が心を開く大人として、「屋台のおじさん」が登場する。おじさんが主人公に言う。「人がこまっとんの見たら、しらんぷりはでけへんわな。／気持ちはスツキリせんやろ」屋台のおじさんは、しらんぷりができない大人なのだ。

家庭教育に生涯をささげた米国の教育家、ドロシー・ロー・ノルトさんに、「子は親の鏡」という有名な詩がある。

〈けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる〉
〈とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる〉
〈愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ〉
そんな言葉が続く。

— 次号につづく —

参考・引用文献

2012年8月5日

「徳島新聞」提供

人権推進課からのお知らせ

人権教育学級、人権問題講演会を開催します。入場料無料、どなたでも参加できますので是非ご来場ください。

※当日は要約筆記を用意しています。

※授乳・育児などに利用できる部屋を準備しております。

◆第5回 人権教育学級

発達障がいについての理解と支援

～希望を共有できる社会をめざして～

【講師】 岩脇小学校教諭 西野貴子さん
【日時】 11月5日(月) 午後2時～午後4時

【場所】 市保健センター2階(多目的室) (午後1時30分より受付開始)

◆人権問題講演会

「人権の基本はいのち」

～いのちの尊さを考える～

【講師】 奈良県人権教育推進協議会副会長 布施正保さん
【日時】 11月12日(月) 午後3時～午後5時頃

【場所】 市ミリカホール(大ホール) (午後2時30分より受付開始)

【お問い合わせ先】 市人権推進課(教育庁舎1階)

TEL 32・2122 / FAX 33・3525

